

助成事業実施報告書

団体名 ヤギヌマローカルリソース

代表者・役職名 氏名 柳沼 和宏

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

コミュニティスペースあらはま(旧あらはまこども地域食堂)

2. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度

・東日本大震災によって、途切れたコミュニティに対し、食を通じた多様な居場所づくりの価値を実感し、次世代のこども達(保護者を含む)を対象とした自発的な交流の場を設け、心の豊かさや自信・成長を育み、自立へのお手伝いを行うこと。
・海辺区域・荒浜でのコミュニティ支援～旧あらはまこども地域食堂を機に、住むことが禁止された仙台市荒浜地区において、外遊びや軽スポーツ、食と自然体験を通じた多世代交流及びコミュニティ再生事業の継続。
事業名称を『コミュニティスペースあらはま』とし、毎月1～2回の開催。
会場: 里海荒浜ロτζ仙台市若林区荒浜字中丁 27・海辺の図書館仙台市若林区荒浜字中丁 36-81 の2か所
・元住民や地域団体との共同で、海辺に生息するスナガニなどの観察・保全に向けた取り組み。
8月14日に産卵時期をひかえる個体の調査を実施。
・開催日に併せ、季節の生き物観察会並びに地域資源を採取・活用したハーバリウムを記念品として贈呈。3回実施。

3. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度

■実施日: 2022年4月16日(土)参加者17名・4月24日(日)参加者17名・5月29日(日)参加者15名
・6月12日(日)参加者15名・7月10日(日)参加者14名・8月14日(日)28名・9月23日(金)参加者20名
・11月13日(日)参加者17名・12月11日(日)参加者10名 実施回数9回 参加者数153名

■事業により、生まれた成果として、食を通じた交流と『荒浜』という自然環境に恵まれた地域にて、海辺の生き物の生態系や保全に関わる課題などを知っていただくことができました。参加者の多くは子育て中のご家族で、多世代交流や自然体験から様々な気付き・学びがあったとのこと。また、本事業では、裸子植物や貝殻、木の実などの地域資源を採取し、ハーバリウムを制作。参加者の記念品として、贈呈させていただきました。食に関しては、コロナ禍に伴う、孤食・欠食のような社会的課題を知り、家族単位で食の大切さを再認識したとの声も複数ありました。また、生き物観察や外遊びなどの実施については、特定地域に住む生き物(海浜植物などを含む)を知る・体験するコトで、生命の尊さや保全活動に興味・関心を持った参加者が多かったとのこと、当団体が取り組んだ事業に一定の効果・成果があったと認識しております。ご参考までに、仙台市若林区荒浜周辺の小学校では、植物(主に希少種)などの保全活動を学校単位で取り組んでいるそうです。このようなことから、海沿いにある同地区には、宮城県レッドリストに指定されているハマナス(海浜植物)やスナガニの生態系を知り、保全活動に取り組む必要性もあり、本事業のミッションとさせていただきます次第です。

4. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字程度

プロジェクト実施にあたり、見えてきた課題として、開催日数を増やす必要性や消耗品・備品などを購入するためのさらなる資金調達が不可欠であることがわかりました。開催日につきましては、月1回の実施では、季節要因により、継続的な観察・環境フィールドワークが困難であるケースも。例えば、絶滅危惧種であるスナガニの観察・保全では、次回の開催日までの間に産卵時期が概ね終わってしまったり、地上でスナガニを観ることが難しくなるなど、一定期間に集中して取り組むべき、時期があります。このようなことから、通年で実施回数を決め、帳尻を合わせるスタンスが望ましいと考えられます。また、当助成申請時の記載では4月24日からの実施予定でしたが、海浜植物の時期を考慮し、4月16日からの前倒しとさせていただきました。

今後の展望として、今年は、上述した課題に加え、あらはまの文化芸能(明治時代で途絶えた踊り等)や郷土料理などを地元の方々に教えていただき、活動日に参加者へ提供する仕組みを構築したい。また、参加者から要望があれば、可能な範囲でオリエンテーションの機会を創出したいと考えております。

5. 参考資料

プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等のデータ。活動の様子がわかる写真などを必ず別途ご提供ください

